

令和4年度 江戸川区立大杉小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	けんこうな子 すすんでとりくむ子 おもいやりのある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者が安心して子どもを預けられる学校 学ぶことを楽しめと感じる児童 教育公務員として使命と責任を自覚し、常に力量を高める努力を行う教師
--------	----------------------------------	----------------------------	--

前年度までの学校教育上の成果と課題	<成果>コロナ・インフルエンザの感染症流行の中においても、安全・安心で健康的な環境づくりの徹底を図ったことで、以前のようなほぼ日常的な学校生活を送ることができた。また、組織的な対応ができるようOJTの充実を図ったことで、各教員の自覚と責任の意識がやや高まった。 <課題>さらに、職層に応じた職務行動が日常的に行えるよう、組織の強化を図るとともに、OJTのさらなる充実を努めて個々のスキルアップを目指す。		
-------------------	--	--	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	評価	コメント		
										取組
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・年3回以上の東京ベーンシッドリル診断テストを実施し、児童の学力を確認する。 ・年間35回以上の放課後補習(ステップアップ)を行い、学力の底上げを目指す。	2年生以上が毎学期に行う東京ベーンシッドリル診断テストにおいて、各学級とも80%以上習得させる。	B	C	B	・学校公開や行事など、学校に足を運ぶ機会が増え、感じています。集会や授業の様子を見ていると、全体としては落ち着いて取組んでいるように感じますが、中には落ち着かずに子もいます。	トライの放課後補習教室へ参加させる児童を指名して、底辺の底上げを図るとともに、家庭学習への課題を個別にするなどして、より個に応じた学習にする。	
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育の毎授業を通した基礎体力づくりとわくわくタイムの充実	わくわくタイムの年間20回以上実施する。 スポーツテストにおいて、各学年とも前年度よりもポイントを上げる。	B	C	B	・今年度の運動会は、昨年度に続き、形は変わったものの、校庭で実施できてよかったと思う。プラスハンドのレードやラリーなど、また全校児童でできることに期待したいです。 わくわくタイムについては、年間計画を改善するとともに、毎月の内容について検討しながら、よりよい時間となるよう努める。	今年度の体育の授業において、毎回継続して行っていく運動メニューを確立し、実践できるよう計画・準備するとともに、実技研修会を定期的に行い、職員の指導力向上に努める。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめて表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連、調べ学習(コンクール応募等) ・学校図書館の整備・授業の充実と	・朝読書の時間を5分間増やして15分間にしたり、各学年で読む目標を決めたりして、読書の機会を増やすとともに、教員や保護者ボランティア、外部講師による読み聞かせを定期的に行い、読書科の推進を図る。 ・中央図書館との連携を図り、団体貸し出しを積極的に活用し、さまざまな本の出会いを創出するとともに、調べコンクールをはじめとする探究の取組を推進する。	年間35回以上の朝読書 毎月1回以上の読み聞かせ 中央図書館の団体貸し出しを全クラスが年1回以上実施	B	C	B	・教員に限らず大人(主事・介助員など)が関わるといい。 ・保護者のボランティアに偏りがあつた。	・スマートフォンやパソコン、モバイルなどがあつたままになり、一人一台のタブレットが与えられたことはいいと思いますが、活字離れ、読書離れが増えないよう配慮です。学校での読書や読み聞かせの機会は貴重だと思えます。よろしくお願ひします。	保護者に協力を広く呼びかけるとともに、保護者もシャッフルするなど、工夫していくようにする。 次年度は、全児童が調べるコンクールに取り組みようとする。
	思考力・表現力の向上	児童の思考力・表現力を向上させるための書く活動の充実	・全校朝会校長講話の感想文、連絡帳の出来事川柳など、身近な「書く」活動を充実させる。 ・ゲストティーチャーへのお礼など書く機会を増やす。	校長講話の書き取りを年間10回以上行う。 国語科はもとより、各教科においても、毎月ノート1ページ程度は書く活動を取り入れる。	B	C	B	・学年により差があるものの書き慣れた感もある。 ・意図的・計画的に継続して取り組むようにする。	校長室の掲示板に子供の取組(作品)があつたので、よかった。子供のがんばりが分かってよかったです。	今後も、書くことは意識して毎日取り組む。苦手意識のある子にも、習慣化することで力が付くよう指導していく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・メンカレッジルームの活用促進 ・副読文、交流及び共同学習の充実	・毎月、特別支援委員会を実施し、指導の充実を図るとともに、必要に応じてケース会を設け、組織的に対応する。 ・特別支援専門員やSC、心理士と連携を図り、積極的に対応していく。	・配慮を要する児童への関わり方等、SCや特別支援専門員などにより研修を年間3回以上実施する。 ・学期に1回以上はお便り等を発行し、情報発信に努める。	C	C	B	・正直言ってよく分らないところはありますが、個人に対する配慮等気を付けてながら指導をお願いします。	特別支援教育に関する部分は、理解があり高くなつたので、情報発信を工夫し、計画的に伝えていけるようにする。	
	子供たちの健全育成	・いじめ、不登校の未然防止に魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルトン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめ防止対策委員会を毎月実施し、情報共有を図るとともに、組織的な対応ができるよう努める。 ・必要に応じて委員会を実施する。	・いじめ0を実現する。	B	A	B	・いじめ0不登校0なのはすばらしい。先生方の努力の成果ですね。 ・学級には手のかかるお子さんや配慮を要するお子さんがいるので、たいへんですが、いろいろな機運と連携するなどして、よりよい教育をしていってほしい。	教員の指導力やコミュニケーション力を向上させるとともに、子供たち一人一人の意識の向上に向け、「まげこぜの学校」の充実を図るよう、計画的にいろいろな人やモノとの出会いをすすめていく。	
	教員の資質向上	・特別支援教育への理解を深めるとともに、指導の充実を目指す	・ことばの教室の教員や特別支援教室(ひだまり)の巡回指導教員による校内研修会を開催し、特別支援教育への理解を深める。	各研修会をそれぞれ1回以上開催する。	C	C	C	・先生方には感謝しております。今後ともがんばって下さい。	年間指導計画や毎月の予定に記載するとともに、今年度のOJT研修会をさらに充実させ、教員の資質の向上に努める。	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年4回の学校公開の実施 ・年3回の学校評議員会の開催 ・各学級行事アンケートの実施と改善案の作成	・学校公開や各行事のあとのアンケートの実施と分析・集計結果を毎回報告する。 ・学校評価アンケートの実施において、各項目の満足度を90%にする。	B	B	A	・アンケートの結果や考察が見やすくなりやすくなったのはよかった。 ・配慮を要するお子さんがいて先生方も大変だなあと心配しています。	学校行事や読み聞かせなどのさまざまな活動や90周年に向けた大掛りの企画・運営など、保護者や地域の方々に関わってくださる機会が、お手伝いをしていただくことにも、学校のことをより理解してもらうようになる。	
	学校教育の情報発信	日々の教育の姿や子供たちの様子の「見える化」	・毎日、学校ホームページを更新し、保護者の安心感を高める。 ・月1回の校長相談日を設け、保護者と校長が直接話せる機会を増やす。 ・いつでも経営参画制度により、保護者・地域の方がいつでも思案の姿を見られるよう機会を設定し、授業の透明化を図る。	・学校ホームページの年間200回以上の更新 ・学校評価アンケートの情報発信の項目において、満足度を90%にする。	A	A	A	・学校の様子がより分かりやすくなったよかった。久しぶりに学校公開に来られてよかった。 ・協力的な保護者が多いようで安心した。	学校ホームページの更新は、だれもができるようにOJT研修会を年度当初に行う。また、更新する担当を担当者ほか、各学年・専科で輪番とし、計画的に実施することでさらに充実させるようにする。	
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月1回の定時退勤日(原則17時)の設定 ・超過勤務時間の視覚化 ・通常の退勤時間の設定(18時30分) ・勤務分掌の見直し ・高学年における教科担任制の導入	毎月の超過勤務時間は45時間以内にする。	B	B	B	・コロナ禍においても、先生方が子供たちのために一生懸命教えてくれるのでありがたい。健康第一なので、気を付けてほしい。	組織の見直しや仕事の効率化を図るとともに、勤務状況を視覚化して、一人一人の意識を高めるようにする。定時退勤日を2回にするのもいい。	
	伝統の継承と創造	8年全員「プラスハンド」や大杉マフラーの充実と発展 大杉芸術祭の開催	年間計画や指導計画に基づき、確実な実施と課題の抽出及び方法の立案を行う。	児童による評価、学校関係者評価の指標において好意的反応が80%以上	B	A	A	・プラスハンドでは、レードはできなかったものの、大杉芸術祭でのパフォーマンスという新しい形で披露できたことは大きな成果といえる。評判もよかった。 ・楽器の傷みがすすんでいるため、メンテナンスを計	メンテナンスについては、主に夏休休業期間を利用して、保護者のボランティアも募り、必要に応じていく。必要な楽器やパーツの購入については、計画的に行うようにする。	